

8. 中国（地域別調査機関：（社）中国地方総合研究センター）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連	良く なっている	競艇場（職員）	販売量の動き	・4月15～20日に開催された全国発売レースで、他の競艇場の協力もあり、かなりの売上があった。
	やや良く なっている	コンビニ（エリア担当）	販売量の動き	・既存のコンビニとの関係が良好で、また食堂等が値上げをした事で弁当の需要が増えた。前年12月に値上げを行ったことが寄与しており、また大型スーパーが1軒出店したことを考えると、この売上増は一過性のものではないと思われる。
		その他小売（営業担当）	来客数の動き	・単価に変化はないが、ガソリンの値下げのため、来客数は増加している。
		スナック（経営者）	それ以外	・来月一杯で店を閉じようと思ひ、客に伝えたところ、常連客などが良く足を運んでくれるようになり、忙しくなった。売上も増加している。
		通信会社（社員）	販売量の動き	・3か月前と比べて、販売量・来客数共にやや良くなっている。
	変わらない	商店街（代表者）	お客様の様子	・来客数は多いが、客の購買時の態度は確実に厳しくなっている。消費者は将来に対する漠然とした不安を持っており、中心市街地の商店は、その客の不安と戦っているようなものである。
		商店街（代表者）	お客様の様子	・カバンの買い換えのシーズンだが、特に中学生から高校生になった女の子達が、中学生の時のカバンをそのまま使っているケースが多い。
		一般小売店〔靴〕（経営者）	単価の動き	・相変わらず品物選びが厳しく、客は自分が決めた単価・予算額を守って、厳しく品物を吟味している。
		一般小売店〔印章〕（営業担当）	販売量の動き	・就職・転勤・入学など異動の多い4月で通常月よりは多くの受注があったが、ほぼ前年並みである。今年は新入社員の氏名印の注文が多く、新入社員が多く採用されたようであるが、団塊世代の退職者の補充のようである。
		百貨店（売場担当）	お客様の様子	・今月の状況としては、気温の状況に左右される婦人用の身回り品、景気変動の影響をあまり受けないとされる化粧品も好調であり、逆にアパレル部門が大不振と両極な状況にある。都会の状況と同様、「アパレルより雑貨」の動向が現れてきた。
		百貨店（購買担当）	お客様の様子	・ガソリンの値上げや中国製品への不信感が強いからか、今まで順調であった食品関係が非常に厳しい。現在、物産展を実施中で大盛況ではあるが、前年をクリアするのがやっとである。衣料関係では、紳士服・婦人服共に若干の値上げがあったからか、購入する客は少ない。
		スーパー（店長）	来客数の動き	・依然として客の減少傾向が続いており、数字で見ると、来客数は前年比85%前後で推移している。ただし、客単価は上昇しており、このことから生活格差の存在を一層強く感じる。
		スーパー（経営企画）	単価の動き	・4月の既存店の客単価前期比は、101.97%である。来客数は前期比100.63%である。
		スーパー（販売担当）	販売量の動き	・各種商品の値上げによる客の買い控えは感じられるが、花の苗・野菜の苗は好調に売れている。また、暖かい日が続き、牛乳を始めとする飲料の売上が伸びる傾向にあった。
		コンビニ（エリア担当）	販売量の動き	・原材料の高騰などで価格が上昇したため、客に安い物、本当に必要な物しか購入しないという様子が見受けられる。
		衣料品専門店（地域ブロック長）	販売量の動き	・例年だと初夏物が動き始めているのだが、今年はまだ春物が売れており、初夏物の動きがない。
		家電量販店（店員）	お客様の様子	・オリンピックが近づき、テレビ・DVDなどの映像関連商品が好調であった。
		乗用車販売店（統括）	お客様の様子	・景気が悪くなる、物価が上がるという報道が多いなか、客との会話では実際にはさほど変わっていないように感じる。むしろこれから良くなるのではないかと。
		乗用車販売店（サービス担当）	来客数の動き	・店頭への来客数が大変少ない。例年に比較して、一日3組から4組程度減少している。

	自動車備品販売店（経営者）	販売量の動き	・売上高及び来客数は前年実績を上回っているが、多分に冬タイヤから夏タイヤへの履き替えに伴う動きが前年以上にあるため、集客用品は前年を下回る動きとなっている。季節的要因が強いようである。
	一般レストラン（経営者）	来客数の動き	・来客数、売上共にあまり変わらない。ただし最近の状況を言えば、連休前にはやや少ないような気がする。
	その他飲食〔ハンバーガー〕（経営者）	来客数の動き	・客単価は低下しているが、来客数はプラスに転じる店舗も出てきている。
	都市型ホテル（従業員）	来客数の動き	・レストランの4月売上は前年を上回っているものの、ゴールデンウィークの予約状況は厳しい状況となっている。
	通信会社（企画担当）	お客様の様子	・「新年度に入ったから心機一転」といった購買意欲の向上めいたものは顧客からは感じられず、年明けからの停滞感をひきずったままの様子に見受けられる。
	通信会社（総務担当）	お客様の様子	・転出による解約は落ち着いてきたが、転入による加入は例年の4月ほど伸びていない。
	テーマパーク（財務担当）	来客数の動き	・春休みからゴールデンウィークの期間は観光シーズンであり繁忙期であるが、来客数が伸びない。学校を中心とした団体はあるが、その他の一般団体が減少している。
	テーマパーク（広報担当）	来客数の動き	・遠方からの来客数が減っているようだが、近場の客が増えておりカバーできている。
	テーマパーク（業務担当）	来客数の動き	・春のイベントはそれなりの来客数を迎えているが、その様子からは特に景気の回復感は感じられない。
	ゴルフ場（営業担当）	競争相手の様子	・他社も何をすれば良いかわからず、手をこまねいている。今は、変わったことをせずに現状維持がベストと考えているようだ。
	美容室（経営者）	お客様の様子	・客の会話のなかで、景気が悪いという声が多く聞かれる。
やや悪くなっている	商店街（代表者）	来客数の動き	・季節的に天候が良くなっても、人の出は悪い。イベント時も以前の様な人出が無い。
	商店街（代表者）	来客数の動き	・来客数も減少しているが、来店される数少ない客の様子を見ても、景気が良くない雰囲気が感じられる。
	商店街（代表者）	来客数の動き	・諸般の物価高・原油高で、客の様子はますます慎重になり、不必要な物は絶対には買わない。財布のひもは固く、購買のハードルは高い。先行き不安な局面が続いている。
	商店街（代表者）	お客様の様子	・物価の上昇、年金不安で財布のひもが固い。
	一般小売店〔茶〕（経営者）	販売量の動き	・全体の世の中の流れが、消費者に防衛にまわらせるようなニュースが多すぎる。そのため守りの消費傾向になっており、必要最低限の物しか購入しない。この影響から、今、当店では「新茶」という一年で一番華やかな時期なのだが、その予約さえも前年に比べて非常に減少している。
	一般小売店（経営者）	競争相手の様子	・商品の値上げ交渉の進捗が思わしくなく粗利の低下を招いている。また3月度の売上減少による、キャッシュフローの低下が顕著である。
	百貨店（営業担当）	競争相手の様子	・同じ商圈内に、リニューアルオープンした店があり、その影響が出ている。また、ガソリン・パン・バターなどの生活必需品の値上がりが続く、婦人服は買い控えの傾向にある。
	百貨店（営業担当）	販売量の動き	・競合商業施設のオープンと、前年のこの時期に実施した改装リニューアル効果で前年同月の売上が伸びた反動で、売上が前年をやや下回る数字で推移している。
	百貨店（販売促進担当）	お客様の様子	・春マーケットが終了し初夏商戦がスタートしたが、婦人、紳士を中心としたファッション部門の動きが低迷している。カットソー、パンツといった単品購買が目立ち、平均単価、客単価共にマイナスで推移し、特に今まで動きが堅調であったヤングゾーンの動きも悪くなっている。

百貨店（販売促進担当）	販売量の動き	・前年の11月頃から売上が前年を割り込む状況が続いていたが、3月半ばから持ち直してきたことから4月は期待を持っていた。しかし、春休み終了後くらいから全く売上が伸びず、客足も落ちてきた。ほとんどのテナントが対前年同月を下回る状況である。
百貨店（売場担当）	販売量の動き	・催事での集客も悪く、食品に加え、美術品などの高額品も売れない。
スーパー（店長）	お客様の様子	・客の会話から、「この商品は以前いくらだったのに、何もかも高くなって」という声が多く聞かれ、商品の値上がりに対する意識がかなり強く、それが買い控えにつながっている。
スーパー（店長）	単価の動き	・一人あたりの買上点数が、以前に比べやや落ちている。
スーパー（店長）	単価の動き	・原油高の影響で商品価格が値上げとなっているのに、客単価が上がらない。
スーパー（総務担当）	来客数の動き	・食料品値上げの影響か、来店回数が減った上に客単価まで落ち込んでいる。
スーパー（経理担当）	単価の動き	・中国産冷凍ギョウザ問題で、中国製品の売上が激減している。
スーパー（財務担当）	来客数の動き	・競合店との価格競争等の影響もあり、若干ではあるが、既存店の来客数の前年割れが続いている。
コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・来客数は前年割れしており、3か月前と比べてもダウンしている。客は相変わらず、スーパー、コンビニなどの使い分けをしており、財布のひもは固い。
コンビニ（エリア担当）	お客様の様子	・4月は花見など行楽シーズンの月だったが、酒・飲料・菓子・弁当など、価格の安いスーパーで買い求める客が目立った。
家電量販店（店長）	販売量の動き	・身近に大型量販店が新店し、価格競争に入っている。非常に困難な状況に陥っている。
乗用車販売店（経営者）	販売量の動き	・暫定税率のゴタゴタや不透明感で、客足が遠のいている。客の会話は、ガソリンの価格の動向や円高の話題が多く、商談が長引いており、売上は前年割れの状況が続いている。
乗用車販売店（統括）	販売量の動き	・4月は暫定税率廃止の関係で登録台数が若干前年を上回ったが、総販売台数では前年を下回っている。
乗用車販売店（店長）	販売量の動き	・販売量について、最需要月を越えて今月は反動が予想されたが、前年に対し落ち込みが極端で、景気そのものが後退している状態が感じられる。
乗用車販売店（営業担当）	来客数の動き	・販売台数はかなりの伸びを示したが、中身を見ると台替え・増車が大半を占め、新規での販売は伸び悩みの状態であった。ただ、月末まで受注をしっかりと取っというと考えてはいるが、今後も厳しい状況は続くのではないかと大いに懸念している。
住関連専門店（広告企画担当）	販売量の動き	・客の数が減ってきた。単価も上がらない。
その他専門店【時計】（経営者）	来客数の動き	・売上を固定客に頼っているような状況である。高額品を扱っているため、感じるのかもしれないが、市場が縮小している。
一般レストラン（店長）	単価の動き	・客単価が著しく低下している。予約の客単価も低下傾向である。
一般レストラン（店長）	来客数の動き	・先月近隣に複合施設が新店し、それから週末の来客数が激しい減少傾向にある。
観光型ホテル（スタッフ）	それ以外	・物価の急騰が相次ぎ、食材仕入に影響が出てきている。販売価格はそのままの状態、原価だけが上がって苦しい状況である。
観光型ホテル（経理総務担当）	来客数の動き	・4月は料飲、宴会部門とも、軒並み来客数減となっている。宿泊部門は前年並みであるため、地元客の足が遠のいていることがうかがわれる。
都市型ホテル（スタッフ）	お客様の様子	・食材の仕入れ価格が上がり、ホテルでの販売価格も値上げをするか、食材の質を下げるかの二者択一を迫られている。どちらにしろ、ますますレストランの客離れに拍車を掛けそうである。
旅行代理店（営業担当）	販売量の動き	・現在、燃料の問題、年金の問題等、個人旅行に影響がある問題が多すぎる。

		タクシー運転手	お客様の様子	・4～5年前の、景気が悪くなる直前の時のように、急に客の間から様々な不満の声が聞こえてくるようになった。例えば、高齢者の医療制度や、道路工事が止まっている事、物価が上がったとか、介護保険の認定が厳しいなど、生活がしにくいという声である。また、3～4月と売上も前年割れである。
		タクシー運転手	お客様の様子	・3か月前と比較しても日中の動きが少ない。また夜についても、3月末から4月にかけて、歓送迎会があるはずだが数が極端に少ない。したがって、昼夜・繁華街通して客が激減しておりタクシーの利用が低下している。
		通信会社（通信事業担当）	販売量の動き	・新規の契約数と同等かそれ以上に解約数が多いので、加入者数が増えない。
		美容室（経営者）	競争相手の様子	・同業者の集まりの話で、キャンペーンを企画し価格を下げたところ、以前は反応が良かったがだんだん反応が鈍くなり、最近は集客力も弱まったということである。店が増えたせいもあるが、どこの店も来客数が減少している。
		美容室（経営者）	単価の動き	・客の様子から、景気の回復が感じられない。生活必需品の値上げが、客単価の低下に大きく響いている。
		設計事務所（経営者）	来客数の動き	・消費に慎重になっており、購買意欲の改善が見受けられない。
		設計事務所（経営者）	それ以外	・建設業ばかりか、どの業界をみても良い話が聞こえてこない。
		設計事務所（経営者）	競争相手の様子	・建設物価の全般的な高騰、特に鉄材の急激な高騰と供給不足を耳にする。これにより、建築計画そのものが中止となった事例を聞かされた。
		住宅販売会社（従業員）	販売量の動き	・新築の受注数は1割減である。またリフォーム工事の受注も1割減となっている。
悪くなっている		商店街（代表者）	お客様の様子	・今後の公共料金等の値上げや、先行きの不透明感から、消費者は将来への不安感が一杯で、買い控えしている。
		百貨店（営業担当）	来客数の動き	・近郊に大型ショッピングセンターが開業した影響もあるが、来客数の減少に歯止めが掛からない。
		百貨店（売場担当）	販売量の動き	・過去5年間で、4月としては最も大幅な売上の減少となった。来客数は前年比90%で推移し、ヤングキャリアゾーンのアイテムが前年比70%～80%で推移している。前年苦戦したサンダルもさらに前年比60%台で、婦人靴全体でも前年比85%となった。海外有名ブランドバッグの落ち込みも激しく、前年比70%台である。
		百貨店（販売担当）	来客数の動き	・同じ地区に競合店がオープンしたことも理由と考えられるが、来客数が前年比で大幅に減少している。
		コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・先月から前年割れになっている。今月も前年比で10ポイントほどマイナスである。車の通りが減ったと感じられる。また、工事の客が前年に比べ減ったのが、マイナス10ポイントの原因である。
		衣料品専門店（経営者）	お客様の様子	・例年この時期はイベントをしないのだが、今年はイベントをしても、反応が極端に少なかった。
		衣料品専門店（販売促進担当）	販売量の動き	・今月は売上に加えて来客数の減少が目立つ。週末は伸びてはいるが平日の動きが鈍い。特にメンズの動きが悪く、会員の買い控えが目立つ。アイテムでいうと例年より半袖の動きが悪く、逆に長袖物が出ている。
		家電量販店（店長）	販売量の動き	・販売量と共に、来客数も非常に減少している。
		その他専門店【カメラ】（店長）	来客数の動き	・来客数が前年比で8割台の水準で、主力の商品が非常に悪い。
		通信会社（総務担当）	販売量の動き	・販売量が伸び悩んでおり、現状維持が精一杯の状況である。
	設計事務所（経営者）	来客数の動き	・周囲の工事件数が減っていると感ずる。また、客からの問い合わせが少なくなっている。	
企業動向関連	良くなっている	-	-	-
	やや良くなっている	-	-	-
	変わらない	化学工業（総務担当）	受注価格や販売価格の動き	・原燃料価格の上昇分を、価格転嫁することによりカバーできていない。

	窯業・土石製品製造業（総務経理担当）	受注量や販売量の動き	・生産量は好調を維持している。大型案件について製造に入ったこともあって、高い生産量が見込める。ただし加工品については、大口の受注に恵まれず閑散としており、原材料価格は依然として高騰が続き、4月から価格改定を行うが現在の状況が続けば期中再度の価格改定が必要となるかもしれない。また中国からの輸入原材料の確保が大きな課題となりそうである。
	鉄鋼業（総務担当）	受注価格や販売価格の動き	・受注は大きくは変わらないが、原材料やエネルギー関連費用の値上がりの影響から、収益が大きく圧迫されている。
	鉄鋼業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・引き続き、フル操業が続いており粗鋼生産量も高水準で推移している。
	金属製品製造業（総務担当）	受注価格や販売価格の動き	・受注量は多く、過去1年以上にわたり、フル生産を継続している。鉄原料の値上がりを受け、販売価格に転嫁するための交渉を行い、要求額の約90%以上は認められたため、収益はこれまで通りを維持できる。
	一般機械器具製造業（経営企画担当）	受注量や販売量の動き	・東南アジア向けの自社製品の売上は伸びつつあるが、依然として国内向けの商品は伸びがみられず、厳しい状況が続いている。
	電気機械器具製造業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・自動車関連・携帯関連とも弱気の受注が続いており、先行きも不透明である。
	輸送用機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・現在のところ良い数字で推移しており、好景気が続いている。
	輸送業（統括）	競争相手の様子	・新規顧客の開拓が進まない今日、料金値下げ競争が継続しており、業績は悪化している。
	輸送業（運送担当）	取引先の様子	・業者の発送物量が減少したままである。
	通信業（部門長）	受注量や販売量の動き	・顧客の回線及びPC等の新設更改時期であり、景気の良し悪しに影響されにくい。ビジネスユースについてもコスト削減を前提にシステム更改についても、景気が悪いといわれながら変化はない。
	通信業（営業企画担当）	受注量や販売量の動き	・法人向け通信サービスの販売量は従来型高額商品（専用線など）の減少が落ち着きつつあるが、代替VPN（仮想プライベートネットワーク）サービスの伸びが思わしくない。大手顧客の複合ネットワーク利用の動きに比べて、地場企業の増設・高速化があまり見られない。
	金融業（営業担当）	受注価格や販売価格の動き	・3月末の公共工事受注の取り合いは、すさまじいものがあり、土木建築はもとより、造園関係でも、前年までの受注価格の3分の1くらいの価格で受注している。広域合併があり、競争がますます激しくなっており、受注価格がどんどん下がっている。よくこんな価格でやっているなあというのが、業者間の感想である。
	金融業（業界情報担当）	取引先の様子	・主要受注先では北米輸出が減少しているが、アジア・欧州向け輸出が依然として好調で、受注全体としては高水準を維持している。
	会計事務所（職員）	取引先の様子	・例年4月は、年度末である3月の反動で急激に営業成績が落ち込むところが多いのだが、全般的に見て、3か月前と比べて売上高がひどく落ち込んでいる業種は、あまり見受けられない。建設、販売といった従来からあまり良くなかった業種も、意外と健闘している。
やや悪くなっている	食料品製造業（総務担当）	受注価格や販売価格の動き	・当社に入ってくる原料もそうであるし、製品についても、原油高の影響でコストが非常に上がっている。
	化学工業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・原油価格の高騰による原材料の値上げと、これの販売価格への転嫁がネックとなり、受注量に少し影響が出てきている。
	輸送用機械器具製造業（経理担当）	受注量や販売量の動き	・海外での引き合い、受注量が減少傾向にある。日本国内については横ばい状態である。
	輸送用機械器具製造業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・受注量・受注価格共に横ばいの状況が続いているが、原材料の値上がり、特に鋼材仕入れ価格の急上昇に加え、春期賃上げの影響や償却費の負担増など、採算面では厳しい状態が続いている。

		その他製造業 [スポーツ用品] (総務担当)	受注量や販売量 の動き	・材料値上がり分の商品への転嫁ができないため、収益が圧迫されてきている。また原油や食料品の値上げが相次いでおり、衣食住以外の消費動向も低迷しつつあるように思える。
		建設業(経営者)	受注量や販売量 の動き	・前々から非常に厳しく底を這っているような状態であるが、特に最近はその厳しさをひしひしと感じている。年度末であるにもかかわらず、建設関係は仕事が少なく、それが価格にも影響している。
	悪く なっている	農林水産業(従業者)	それ以外	・今月と3か月前を比較すると、大中型巻き網船が減少したため、水揚数量で969tの減少、水揚金額も2億4,000万円の減少である。今月単月の前年比では地元巻き網船が増加したため、水揚数量で510tの増加、率で125.2%。水揚金額では3,540万円の増加、率で106.2%である。
雇用 関連	良く なっている	-	-	-
	やや良く なっている			
	変わらない	人材派遣会社 (支社長)	採用者数の動き	・製造業系は、採用者数の減少が見受けられるが、事務系派遣に関してはまだ減少傾向は出ていない。
		新聞社[求人広告] (担当者)	周辺企業の様子	・雇用の状況はこれまでと変わらないが、特に小売業で物が売れないと嘆く店が多い。地方特有で、少子化だけでなく人口そのものが減少しているように思われる。
		職業安定所(職員)	雇用形態の様子	・依然として、非正規雇用のパート求人や請負・派遣といった求人が多くみられるものの、団塊世代の退職に伴い大企業の正社員補充の求人も若干みられる。
		職業安定所(職員)	求人数の動き	・求人数が増加しない。そのなかでも正社員求人の割合が伸びない。
		職業安定所(雇用開発担当)	それ以外	・新規求人倍率が低下傾向にある。
		民間職業紹介機関(職員)	雇用形態の様子	・正社員採用する場合、選考が厳しくなりつつある。従来1~2回の面接で採否を決定していた企業が、4回面接を実施したり、人事サイドが設けた応募条件を十二分に満たしているにもかかわらず、直属の責任者など、現場が即戦力でなければ受け付けず不採用になったりと、シビアな状況になっている。
	やや悪く なっている	人材派遣会社 (営業担当)	求人数の動き	・円高などの外部環境の変化に伴い、特に製造業を中心として求人数が激減している。その他の業種においても先行きに対する不安感による人員抑制や新卒採用社数を大幅に増加させたことにより、全体的に派遣社員採用の動きが鈍くなっている。
		求人情報誌製作 会社(支社長)	周辺企業の様子	・学生募集の場合、募集広報費の削減により、更なる状況の悪化を生んでいる。
		職業安定所(職員)	求人数の動き	・求人は、卸売・小売業での減少が目立ち、求人全体でも件数・求人数共に減少した。要因は、原油価格高騰などから企業収益が悪化していることと併せて、諸々の物価高から消費者の購買意欲低下も重なり、先行き不透明感から求人提出に至らないためである。
	悪く なっている	-	-	-